



TITLE:

## 第340回京都外科集談会

AUTHOR(S):

---

CITATION:

第340回京都外科集談会. 日本外科宝函 1958, 27(1): 299-301

ISSUE DATE:

1958-01-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/206566>

RIGHT:

## 第340回京都外科集談会

昭和32年10月31日

## (1) 大人に発生せる頸部血管腫

京大外科 I 石川 進

血管腫は、胎生時に隔離された中胚葉組織の一部から発生する先天性腫瘍と考えられ、殆んどすべて小児に見られる。

海綿状血管腫は肝臓に好発するが、その他の組織、臓器にも現れ、又、顔面に生ずる毛細血管性血管腫は、しばし三叉神経の走向に一致し、而も厳密に一侧のみに現れることが知られている。

我々は30才の男子で、後浅頸静脈、後頭静脈、後耳介静脈、側頸深部の静脈、甲状腺静脈の領域で、厳密に右側のみに限り、附近の血管の拡張、蛇行を伴い無痛性、波動性腫瘍が多発し、手術的に摘出することにより全治し、組織学的検索から、一部蔓状血管腫の性格を伴った海綿状血管腫なることが確認された1例を経験した。

## (2) 女性水腫の2例

大和高田市民病院外科

杉本 雄三・玉木 泰嗣

女性水腫の報告例は比較的稀で、外国では100余例の報告があるが、本邦では20余例に過ぎない。

症例1: 4才。男。約1ヵ月前より右鼠蹊部に拇指頭大の無痛性腫瘍のあるのに気付いたが、その後大きくなりないので、現在迄放置していた。

症例2: 37才。男。相当以前より右鼠蹊部に腫瘍形成があり、労働により大きくなり、休養により縮小していたが、2~3日前より大きくなり縮小しない。前者は水腫中に更に水腫を有する Hydrocele encystica であり、後者はヘルニアと水腫とを合併する Hernia encystica であつた。大きさは、夫々胡桃大及び手拳大で、内容として淡黄褐色透明液を認めた。いづれも手術により摘出し全治した。

追 加 大和高田市民病院外科 杉 本 雄 三

外科医による報告が少いのですが、実際はもつと多いものと思います。注意を喚起する為敢て報告した次第です。

## (3) 0.3%ベルカミン S 250cc 長期腰麻の経験

大和高田市民病院外科

杉本 雄三・平野 巖

Touhy の持続的脊髄麻醉法を延長し、吾々は大腸骨肉腫の神経圧迫及び病的骨折による激烈な疼痛に対して、脊髄腔にビニールチューブを挿入し持続的に右下半身を約3週間麻酔した。即ち0.3%ベルカミン 2cc 宛を、最高1日に12回注入したが、血圧低下、腹部膨

満、頭痛等なく、適宜導尿、浣腸を行うのみで経口的に食餌を摂取せしめて、入院中約3週間に250cc以上の大量を注入し更に退院後悪液質にて死の転帰をとる迄の1週間に100cc 追加し充分麻酔の目的を果し改めてビニール注入の効用を再認識した。長時間に亘る上腹部手術には、Saklad の脊髄分節麻酔が、冬眠麻酔の併用によつて簡単で且充分な麻酔として気管内麻酔の頻用される今日でも、場合によつてはもつと愛用されてよいものであらう。

質 問 外科 I 伊 藤 隆

かゝる場合は Rücken mark Tr. Spinothalamicus を切つた方が良いのではないか？

答 杉 本 雄 三

1. お仰せの様に手術侵襲は肉腫の末期患者の此の場合無理であり簡便な本法を選んだ訳です。

2. 7日目に Meningitis を来すと云はれましたが我々の場合少くとも3週間経過観察していた期間は臨床上認む可き meningitis の症状はみられませんでした。

追 加 三豊第一病院外科 篠原 秀幸

高令者の大腿骨頸部骨折の変形治癒後頑固な神経痛患者に同様ビニールチューブを挿入高比重ベルカミンを定期的に注入したが、演者の如き頻回でなかつたためかあまり効果のなかつた1例がありました。

## (4) 虫垂切除術後高度の血尿を来した1例

三豊第一病院外科

井上 尚史・篠原 秀幸

廻育部痛、軽度発熱にて虫垂切除を行い壊疽性虫垂炎であつた症例で術後初回自尿約400cc が殆ど静脈血を思わせる如き高度血尿であつた1例を報告した。過去2年間に行つた377例の虫垂切除例中1例で0.2%であつた。顕微鏡的に血尿を見る事はかなり高率で我々は37例中26例約90%に見られた。尚術後初回尿沈渣より大腸菌の検出を行つたが39例中17例で43.5%と高率を示した。

## (5) 長期大出血の続いた所謂特発性腎出血例の検討

新宮市民病院 近 江 達

古座川 病院 青 柳 一

患者は30才の美容師で1週間の過労後、高度の左腎出血が続き出血量は1日約100~300cc、最高500ccに達し、種々の治療も効なく28日後救命の為、左腎切除を行つた。腎機能、ピエログラフィー等は正常で所謂特

発性腎出血に属するものである。肉眼的には皮質に楔型の変色部が、上腎杯に粘膜下出血が認められる。組織所見で皮質に多くの尿細管内出血があり、細胞浸潤が皮質、血管周囲、腎洞、葉間脂肪組織等に見られるが出血壊死巣はなく血栓も認めない。上腎杯、腎盂に数箇所の粘膜下出血があり細胞浸潤を伴い好エオジン球の多い部分もある。

是等の病変は何れも術前の大出血とは関係づけ難い比較的軽度のもので、腎上半部に広く散在しており、血行性の同一の病因又は機転により現れた種々の病変と解するのが妥当と考へられる。多くの尿細管内出血が存在するにも拘らず、糸球体、間質の出血、血管壁の破壊も見られず、尿細管内出血の由来が全く不明である事は本例の特異な点であるが、Nation, Butt等の血管壁の可逆的透過性変化が所謂特発性腎出血の本態であるとの仮説を考へると極めて興味深いものがある。

#### (6) 障害を来したレジンカップ使用股関節形成手術例に就いて

玉造整形外科病院 山田 栄

岩原教授は股関節に金属、人工樹脂等の骨頭或はCupの使用はその目的を全うすることは困難であると述べている。果して青木氏等によるレジンの破損した2例についての報告が現われたが、今後この様な障害例が漸次発表され、中間挿入物の研究が更に要望されるものと考えられる。

レジンカップ使用の股関節形成術は先に堤等により発表した様に術後暫くは良好な結果を得ている。その後の長期の観察によると、最優秀例と考えられていた中の1例は術後3年で急に疼痛と共に患脚起立不能となり、症例2は1年6ヵ月で突然股関節部の激痛と共に起立不能となっている。又症例3も既に発表の様に化膿のためカップ摘出後補助器を装着していたが、結局歩行時の疼痛残存のため転子下骨切術を行わねばならぬ様な結果となつた。

以上カップ使用の股関節形成術後のカップ障害の2例と、化膿による障害1例を経験報告した。

質問 大和高田市民病院外科 杉本 雄三

：悲歎すべき症例のみですが効果のあつた症例はどれ位でしょうか。京大ではこうしたカップや人工骨頭に対してどの様な見解を持つておられるのでしょうか。

追加質問 整形 鶴海 寛治

教室では関節離断術適応例の1部に人工骨頭を使っている程度である。関節に大きな非吸収性異物を使用する事には色々の危惧がある。

整形 鶴海 寛治

第1, 3例共に骨頭の消耗が甚しいが他の例ではどうですか

答 山田 栄

(i) 杉本先生に：Muld使用の股関節形成術の適応には慎重を要し絶対的適応は悪性腫瘍等でありませうが、比較的適応としては一応炎症等の急性症状が完全に鎮静した後、更に職業等を考慮して行つています。

(ii) 鶴海先生に：金属、人工樹脂等の骨頭或はCupの使用はその目的を全うする事はないかと考えますが、更に中間挿入物の研究が必要と考えます。然し尚ほ長期の遠隔成績を観察する必要があるものと考えます。

#### (7) 脛骨結節裂離骨折の2例

玉造整形外科病院 山田 栄

比較的稀な疾患で、私の調査した所では本邦で十数例の報告に接するに過ぎない。先にこの1例を報告したが、更にその2例を経験し観血的整復術を施行して略々その目的を達したので追加報告した。

#### (8) イルコジンの使用経験

玉造整形外科病院

大塚 哲也・山田 栄

肋骨骨折患者30例、脊椎カリエスの病巣廓清術施行12例、肋骨周囲結核の肋骨切除術施行3例及び感冒20例にイルコジン坐剤を使用し、認めるべき効果を得た。

#### (9) 両下肢運動麻痺を主徴としたNeurofibromatosisの1例

京大整形 佐野耕三・中野喜宜

凹足を主訴とせる21才女にV. Recklinghausen氏病を発見し、皮膚腫瘍、色素斑、深部神経腫瘍を認めた完全型で、特に椎弓切除術を施行、SI右神経根及び多数の馬尾神経に神経鞘腫の存在を、肉眼的にも、組織学的にも確め得た事は本邦文献上にも珍しい症例と考え報告した。

#### (10) 骨関節結核病巣内ストレプトマイシン濃度について(第2報)

京大整形 大阪医大 近藤 茂

骨関節結核患者にSMを筋注した時、病巣部の膿膜に阻まれた貧血性の肉芽組織や血行から遊離している腐骨や乾酪性物質に、結核菌抑制濃度は到達するかどうかはSMの合理的使用法を決定する前に解決すべき問題である。演者はこの疑問を解決するため、のべ43手術例<sup>1)</sup>(昭和29年6月～30年3月)から摘出した78箇<sup>2)</sup>の組織につき、術前に投与されたSMの分布濃度を測定した。

SMの結核菌抑制最小濃度を0.6μg/cc(C. Keefer)とした場合、骨髓、肉芽組織等には時により、SMの有効濃度を発見したが、乾酪性物質、腐骨、膿痕等には殆ど認明しなかつた。一般に血行から遮断されている組織にはSM濃度が低く、此の測定値からして腐骨や壊死軟骨等に存する結核菌にはSM筋注投与は無効

に近く、かゝる組織を有する患者は保存的化学療法の限界外にあると考えられる。従つてかゝる組織を有する患者には病巣廓清術の適応がたかく評価されるべきであろう。

#### 1) 手術例分類 (計43例)

脊椎カリエス16例。股関節結核13例。仙腸関節結核1例。腰椎淋巴腺結核2例。胸囲結核2例。風棘1例。足関節結核2例。膝関節結核5例。肩関節結核1例。

#### 2) 測定材料分類 (計78箇)

肉芽組織36。乾酪性物質11。腐骨10。椎間板3。癒痕6。冷膿3。関節軟骨1。骨髓3。関節滲出液1。酸膿膜1。半月板1。関節囊2。

質問 外科Ⅱ 石上 浩一

門外漢で愚問かもしれませんが、骨関節結核のストレプトマイシン療法で、骨髓炎のペニシリン療法の様に、病気の重篤度又は進展度で外科的療法と化学療法の占める位置がかわることはないでしょうか。

答 近藤 茂

1) akute Stadium には化学療法が有効であろう事は図示症例の synoviale Form のものに示した。grundlich には同様の考え方でのよいのではないかと思う。

#### (11) 小脳橋角部の Cholesteatoma

京大外科Ⅰ 伊藤 隆

左の小脳橋角部に発生し、略小脳の左半分を占めていた Cholesteatom を経験したので報告し、若干の考察を加えた。

患者は29才の女子。約11年前より、徐々に頭痛及び I Winkelsyndrom を来した。手術時に特徴ある真珠様光沢を有する Kapsel を発見、Kapsel の一部を除いては、略完全に剔出した。第8脳神経は、腫瘤とは直接の関係がなかつた。術後経過は良好にて、23日目に軽快退院した。

#### (12) 発病後11年を経過せる慢性腸重積症の1例

京大外科Ⅱ 劉 楓 橋

発病後11年もの経過を辿つた慢性腸重積症は文献でも余り報告されていないので、今回1治験例を得たので報告した。11才の男子で、弛緩性腹部膨隆及び嘔吐

を主訴として来院したもので、生後8ヵ月頃に腸閉塞症に罹患したが全身状態不良で手術不能と言はれ、姑息的療法の結果危険状態を脱し得たもの。その頃より少しづつ腹部膨隆が認められ今日に到つたものである。X線像(経肛門造影剤注入)で先天性上行結腸巨大症と疑はれたが、開腹の結果廻盲部腸重積症であることがわかり、上行結腸巨大症と思はれたのは、慢性腸狭窄の結果、腸管拡張、壁肥厚を来した廻腸終末部であつた。Hutchinson 氏手技による重積解離術不能の爲、重積部を中心に腸切除術を行い、端端縫合を行なつた。三筒性の重積症で進入筒と退出筒は壊死肥厚を来し、両筒間は肥厚器質化している。管腔は極度に狭くなつている。生後8ヵ月頃の急性腸重積症が慢性に経過したものであるのを確め得た。

#### (13) 肺膿瘍を合併した肝膿瘍の1治験例

神戸中央市民病院外科

渡辺三喜男・堀出 礼二

46才の男に再三再発を繰返し、肺膿瘍を合併した肝膿瘍の1例を2度の切開排膿手術とテラマイシン吸入、エメチン注射により治癒せしめたので報告します。本患者は発病3年前にアメバー赤痢に罹患した事があり、又弧性膿瘍であり、膿がチョコレート色を呈して居た事、手術時所見より胆嚢炎よりの続発が否定される事よりアメバー性膿瘍であつたと思われます。肺膿瘍が右下葉に発生したことは血行性転移の他リンパ行性転移が考えられるのではないか。第2回他病院で行はれた胆膵は無意義であつたと考える。

#### (14) 先天性肝外胆道畸型の3例

京大外科Ⅱ

鈴木博・芳村勝夫・神藤昭男

最近経験した肝外胆道畸型の3例を報告する。

症例1は9ヵ月の女児、症例2は5ヵ月の女児、症例3は3ヵ月の女児で何れも灰白便と黄疸を主訴とするもので症例1は総胆管が十二指腸側で閉塞しているために小児頭大に膨大しており総胆管胃吻合術を行つた。症例2は総胆管の末梢側に閉塞があり総胆管閉塞部を鈍的に開口させた。症例3は胆嚢、胆管を全く欠き、肝十二指腸吻合術を行つた。症例1と2は術後間もなく死亡したが、症例3は術後黄疸指数の減少をみて、胆道形成術の成功を思惟せたが腹膜炎を続発して死亡した。